

単元名 かさ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) かさの普遍単位L, dL, mLについて理解し, それらを使って測定することができる。
 (2) かさの普遍単位の必要性について考えることができる。
 (3) 入れ物のかさに関心をもち, 進んで身の回りの物のかさ測定しようとする。

標準的な展開例

02040110_001

【準備等】 1Lます, 1dLます, 1.5Lペットボトル, バケツや水槽などの容器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かさの測定の仕方を考え, 1Lますを使っていろいろな容器のかさを測定する。[p. 88・p. 89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バケツに入る水の量の比べ方について話し合う。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★いろいろないれものにはいる水のかさのあらわし方をしらべていこう。 ○「L」の単位を知り, かき方を練習する。 ○バケツに入る水のかさを「L」を使って表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 かさの単位「dL」を知り, LとdLの関係を理解する。[p. 90]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1.5L入りのペットボトルにはいる水のかさを量る問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★1Lよりも小さいかさのあらわし方を知ろう。 ○「dL」の単位を知り, かき方を練習する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 かさの単位「mL」を知り, L, dL, mLの関係を理解する。[p. 91]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小さいペットボトルに入る水のかさを調べる問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★1dLよりも小さいかさのたんいを知ろう。 ○「mL」の単位を知り, かき方を練習する。 ○1Lは, 何mLかを考える。 <p>4 「1Lはどれくらい」に取り組む。[p. 92]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1Lのかさをつくってみよう。 ○目盛りのついていないバケツや袋などに各自が1Lと思う分量の水を入れる。 ○1Lますで水のかさを確かめる。 ○1Lの水をいろいろなものに入れる。 ○身の回りから, 1Lくらい入るものを見付ける。 ○身の回りのもののかさを予想して, 実際にかさを量る。 <p>5 かさの計算をする。[p. 93]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★かさの計算のしかたを考えよう。 ○1L 5dL + 1Lの計算をする。 ○2L 5dL - 5dLの計算をする。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長さの時と同様に, 「同じもので測定すればよい」ことに気付かせる。 ・大きさの違うペットボトルで比んでいることに気付かせ, 普遍単位の必要性を意識させる。 ・かき順を確認し, 初めはなぞらせる。 ・1Lのいくつ分かに着目させる。 ・Lを使って表すことに慣れさせる。 【評】かさを「L」を使って表す活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・図や実測により, 1dLますの目盛りが, 1Lを10等分した1つ分であることを理解できるようにさせる。 ・Lの単位だけでは, はしが出た正確に測定できないことを実感させる。 ・Lよりも小さい単位の必要性に気付かせる。 ・「1L=10dL」であることを押さえる。 ・1Lます, 1dLますを使って, 視覚的にも量感をつかませるとよい。 【評】かさを表す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・長さの単位や数のしくみなどに関連させ, 10等分させながらL, dL, mLの関係を理解させる。 ・340mlのペットボトルに入る水のかさを1dLますだけで測定させる。 ・dLの単位だけでは, はしが出た正確に測定できないことを実感させる。 ・「1dL=100mL」であることを押さえる。 ・「1L=10dL」「1dL=100mL」の関係から「1L=1000mL」を導く。 【評】単位の間隔を比べる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・1Lを量り取る活動を通して, 量感を豊かにする。 ・実際に入れる前に1Lますの大きさを想起させ, どのくらいまで入れればよいか予想させる。 ・入れたかさがどの程度予想とずれているか確認させる。 ・底面の大きさが異なる入れ物に1Lの水を移し替えると, 水面の高低はあっても, かさは1Lのままであることを気付かせる。 ・実際に水を入れて確かめることで量感を育てる。 ・1Lます, 1dLますを使って, およそのかさを実際に量ることで, 量感を育てる。 【評】身の回りのもののかさを量る活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・簡単な加減計算をする。 ・長さの計算のように, 同じ単位の数をつたせばよいことに気付かせる。 ・減法でも, 加法と同様に同じ単位同士で計算すればよいことを押さえる。 【評】かさの簡単な加減計算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。

6 単元を振り返り，復習問題に取り組む。[p. 94・p. 95]

○「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・かさについて分かったことや面白かったこと
もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元は，かさの普遍単位 L，dL，mL について学習する。量感をつかみやすいよう，実測を重視し，児童が具体物を手掛かりにして「かさ」を実感できるように配慮する必要がある。その中で，普遍単位の必要性に気付かせる場面を設定する。第 1 学年「おおきさくらべ」の中の水のかさを比べる学習と関連があり，それを踏まえた指導が大切である。